

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：6年 3月 26日

事業所名 もくせいクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	4	定員数に応じては狭いと感じる事も多いため、屋外での活動を増やして対応している	・もう一部屋ほしい ・クールダウンの場所や子どもの特性に合わせた部屋数が必要だと思う意見があった。 物理的、経営的な部分で困難な所が大きいですが、活動を分けたり、屋外に出たりして対応させていただきたい。
	2	職員の配置数は適切である	9		活動中は多めに配置している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	3		非常勤の職員には、参画ではなく周知という形になっているので、非常勤の職員からの意見も聞くようにする。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	1		外部評価は行っていない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10			常勤の職員には研修の機会はあるが、非正規職員に関しては年1~2回程度になっているので、研修の機会を作っていきたいと思う。 伝達講習も考えてみる。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	相談支援専門員、行政の方と一緒にアセスメントを行なっている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1	標準化されたものではないが、相談支援事業所と共通した物を作っている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1	年度、月、週とそれぞれ常勤職員で立案を行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1	教室、屋外活動、室内活動と混合して行っている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	1		活動の一日の流れは設定しているが、個別の課題には細やかに対応できていない所もあり、出勤が豊富な時は、日頃できない所を細やかにしていきたいと思う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	集団や小グループ、個別に分けて行っている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		毎日業務内容や利用児の事についてミーティングを行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2		全ての業務終了後、その日気になったことや児童について話をしているが、勤務時間の都合で全職員ではないため、連絡ノートを用いたいと思う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	1			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	10				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1	児童発達支援管理責任者は必ず、ケースに応じて児童指導員、及び、保育士が同席している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9	1	送迎時や緊急の場合には、電話等で情報共有や、連絡を行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	4		・外出先等でも連絡が取れるように病院名・先生名を知っておきたい ・医療的ケアの必要な児童は1名いるが、保護者を介しての連絡体制になっているので、しっかり把握していきたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	1	同法人の児童発達支援事業所から事業所を利用する場合には、引き継ぎのケース会議を行っている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8	1	福祉サービスを利用する場合などは、福祉サービス事業所を交えて話し合いをしている	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	1	モニタリング等に、発達障害者支援センターの方に同席していただき、アドバイスをいただく場合もある	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	7		・コロナ以降無い ・児童クラブの先生と交流の話はしているが、具体的な実行に至っていないため、来年度は実現させます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1	市内の放課後等デイサービスで作る、放課後等デイサービス事業所連絡会に参加し地域のイベント等に会で出展した	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		送迎時や連絡帳、電話や訪問などで子どもの状況を伝え合っている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	4		相談は行うが、トレーニングまでは行っていないので、努力していきます。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	利用開始には、きちんと説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1		悩みなどの相談は受けているが、必要な助言と支援が出来ているかは不明です。今後も相談には真摯に対応させていただきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4		・保護者会が存在しているのか知らない ・保護者会は設置していません。事業所側は学校のPTA活動を優先して欲しいと思っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1	苦情等については、苦情受付窓口を設け、迅速に対応している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		毎月おたよりを発行している	
	35	個人情報に十分注意している	10		短期のアルバイト生にも、個人情報の話をして誓約書を書いている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	1	視覚的にカードや、分かりやすい文章などにして説明している	

37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	事業所のイベントに地域の方への呼びかけは出来ていない。事業所の広さも影響しています。
----	------------------------------------	---	---	--

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	1	マニュアルは作成している	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		毎月避難訓練を実施している	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		年度内に、職員一度は研修を受け、ミーティング等で個別のケースについても話をしている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	1	現在、身体拘束するような児童は在籍していない。身体拘束については、職員に話をして、行なわないようにしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10		保護者を介して、指示書を預かる場合もあり、アレルギー食の提供には気を付けている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	1		